

令和7年度 三木市特定教育・保育施設評価 目標達成計画

(園所名) 羽場認定こども園

観点	③自尊感情を育むとともに豊かな人権感覚を養う教育・保育
項目	内 容
園の現状や取組、課題	一人ひとり違っていても良いことを理解し、相手を思いやる心を培ってほしい。多文化多言語の子どもや配慮が必要な子どもが増え、言葉の壁もあり、自分の思いが伝えられず戸惑いもあったが、好きな遊びを見つけたり、集団あそびで友だちと関わったりすることのできる環境の中で輪が広がってきた。一人ひとりの個性や発達の状態を理解し、子どもが主体的に活動できる柔軟な保育を心がけたい。
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの主体性を尊重し、個々の興味や関心が経験につながる活動を通して、お互いを知り認め合う。 ・お互いの良い所を見つけ、個性を認め合える環境の中、「できた」という経験を積み重ねる。 ・周囲の人や物事に感謝の気持ちをもつ。 ・多様な文化や習慣などに親しみを持ち、理解しようとする。
目標達成に向けた具体的な取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の終わりに、その日に見つけた友だちの良い所や伝えたい事等を発表できる場を設け、一人ひとりの気持ちに耳を傾け共感し、優しい心が育つような取り組みをする。 ・写真や絵も使い、活動内容を視覚的に理解できるよう工夫したり、子どもの気持ちに寄り添うことで発言しやすい環境や雰囲気作りをする。 ・絵本「ことばのいいかええほん」を読み、「ふわふわことば、ちくちくことば」を理解し、言葉を選ぶ力を身につけていく。 ・外国の国旗や音楽、絵本に触れ親しむ機会を保育に取り入れる。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの良い所探しをすることで、今までよりも周りを見て行動できるようになり、友だちの行動や優しさに気づいたり、相手を認める気持ちが育ち、クラス全体に穏やかな関わりがふえた。運動会や造形展等行事を経験し、難しかったこと、楽しかったこと等、みんなの前で発表する機会をもち、伝えたいことを共感しあえた体験が自信につながり、自己肯定感が高まった。 ・多文化多言語の子どもや配慮の必要な子どものためだけでなく、全体にカードなどの視覚支援や簡単な手話を使うことによって、外国語や手話に興味を持ち、子ども同士でも工夫して表現する姿も増え、コミュニケーションがとれるようになり、活動の輪が広がった。 ・「ふわふわとちくちくことば」を学ぶことで相手の気持ちを想像する力が身に付き、嫌な言い方と優しい言い方に気づき、伝え方を考え工夫するようになった。 <p>万博や運動会の万国旗を通して、いろいろな国があることに気づき、友だちの生まれた国に興味や親しみを持ち、話し合った。そして、グループごとに国旗を描き、壁面やおみこし製作に生かすことができた。多様な文化に目を向け、興味を持って学べる子どもたちになってほしいと願い、保育を進めていきたいと思う。</p>
評価	子どもたちが元気で楽しみながら園生活を送っていることが感じられる。その中で、友達の良いところ探しをしたり、子どもたち同士で考える場面を設定したりして、お互いを認め合う環境を整えてきたことが評価できる。また、多文化環境を生かしながら、様々な国や文化があることに気づけるような人権的な配慮がなされており、一人一人が自尊心をもって生きていく上での基本的な体験が積み重ねられていると考えられる。今後もグループ活動を盛り上げながら、お互いが尊重し合うことができるよう、保育を積み重ねていきたい。